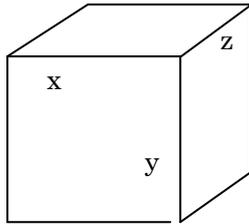


ジョンソンの空間図と言友会の方向性

『吃コミ』の「吃音とうまくつき合う吃音講座」というシリーズものに、ジョンソンの空間図が載ってそれを援用しての言友会の方向性が語られています。(『吃コミ』NO. 37)

色々な場でこの空間図が援用されているのですが、y軸のとらえ方が引用者によって異なっています。原典にあたる必要を感じているのですが、不勉強でまだなしえていません。



x・・・話しことばの特徴

y・・・聞き手の反応

z・・・話し手の反応

問題は、ジョンソンの空間図を援用しての言友会の方向づけにあるのではと考えられます。ジョンソンも同じようなことを書いているのかは知りません。おそらく、言友会のオリジナリティではないか

と憶測しています。筆者は、近代合理主義的発想で、x y z どの軸への働きかけが有効か？というところから問題を立てています。その発想の枠組みで言えば、どれか一つを選ぶ必要はない、どの方面へも働きかければよい。活動主体者がどの働きかけが有効と思うのか、どの方向に関心を抱いているのかという問題です。互いに排除しあうことではないと思います。現実には排斥のようなことが起きているのは、対話不足と活動主体の排除指向－偏屈さというような歴史的限界性として押さえておく必要があるでしょう。さて、本題にはいりますが、ここで問題にするのは、y軸のとらえ方とy軸への働きかけのとらえ方です。y軸を吃音に対する社会的意識としてとらえ、y軸への働きかけを、社会的意識を変えるとか、社会を変えるというおき方をしている場合がありますが、これは誤りではないかと思うのです。y軸は、あくまで個別の「聞き手の反応」ではないかと思います。これを吃音に対する社会的意識とまでとらえるのは拡大解釈による誤りではないかと思うのです。実は、ここには世界観の問題が横たわっています。というのは、個々の意識ということバラバラの個々の意識というようなとらえかたをした時には、個々の意識も社会的意識も区別する必要はありません。ここでは、社会的意識を変えようという問題も個々の意識を変えて行くという啓蒙の問題の寄せ集めにされます。「宣言」の中に出てくる社会変革の視点などでできはしません。個々の意識が社会的意識に規定されてあるというとらえかたをして、社会意識の存立構造をとらえた時には、y軸への働きかけとされる2つの性格が区別されるだろうと思うのです。(もっと言えば、社会意識がx・y・z各軸を規定しているのとらえ方もできるのです。)

そして、y軸への働きかけを「社会的意識を変える」と拡大解釈することの誤りが指摘できますし、更に、言えば、y軸への働きかけを個別の「聞き手の反応」を変えようということに限定したときの運動の有効性への疑問がでできます(これについては後述)。そして、「社会的意識を変える」－「社会を変える」ということは、この空間図でどう表現で

きるのか？というこの空間図そのものの有効性の問題がでてきます。

問題を別の観点からとらえてみます。

文化による吃音の受容度の違いということがよく言われます。「アメリカ先住民のある部族には、「どもり」に相当する言葉がない」という話が永く語られて来ました。南洋の島で暮らした吃音者が、その島には「吃音の問題などあるはずがない」と断言しました。では、その場面ではこの空間図ではどう表現できるのでしょうか？

空間図が、文化の違いに応じて色々異なって来るということではないかと思えます。そこから類推して、「社会意識を変える」とか、「社会を変える」ということは、この空間図そのものを成り立たせている根拠を問い、一つの空間図から別の空間図へ変動させるということで、もっと言えばこの空間図が成立しない社会に変えるということで、この空間図を存立させる「構造」そのものに対する働きかけで、個別軸の働きかけの問題ではないのです。

もっと言えばこの空間図は各軸の関係性を明らかにしえていない、とその不備を指摘できます。

そもそもこのようなニュートン力学的空間図が、現代の物理学のパラダイム転換の中で、超えられるものでしかないということを更に指摘しておきます。

更に、もう少し問題を深化すれば（先ほど後述すると書いた内容です）、 x を0にしえない以上は 個別的に0にしえるかどうかの問題ではなく吃音者が存在する限り x 軸 y 軸 z 軸どの軸へ働きかけるか、というような設定は、永遠の繰り返しの運動にすぎない。新しい吃音者が生まれ、新しい非吃音者が生まれる毎に、同じことを繰り返していかなくてはならない。それは悪無限的活動です。

言友会も自分がどうするのか、吃音者個人としてどうするのか、ということからポツポツ転回して、吃音者（一総体の）立場でどうするのかというところへ飛躍する時に来ているのではないのでしょうか？そうでなければ会（グループ）をもっている意味はないのではないでとも思います。

ジョンソンの空間図をなりたたせている根拠を問うー吃音・吃音者とは何か？ということとを問う中で、この空間図そのものが意味をもたない社会へ向けた運動を開始すべきではと考えるのです。